

7月より常勤2名体制となった救急科 地域に求められる安定した受け入れを目指します

二次救急指定病院として年間4000、4500件の救急車を受け入れている救急科。杉並・練馬・中野地区をカバーします。「二次救急としては、受け入れの幅―疾患の幅と重症度の幅―が広いのが当院の特徴ではないかと思えます。脱水から重症腹症、

救急科医員

米沢 光平

(よねざわ こうへい)

2002年 浜松医科大学卒 一貫して救急医療に取り組み、この地域における、荻窪病院の役割を学んでいる最中です。



救急科部長

辻 晋也

(つじ しんや)

2000年 岐阜大学卒 7月に部長に就任。やさしい語り口で患者さんやご家族に安心感も与える。「来てよかった」と思われる救急外来にしたいです。

大動脈破裂まで、各診療科のバックアップを受けながら、重症度が高い患者さんも極力受け入れるようにしています」と話す救急科・辻部長。7月より米沢医師が赴任し、常勤医2人体制になりました。

「人員が増え、安定感が増したと考えます。研修医、非常勤医もおり、全体を俯瞰し、足りないところに働きかけるということができるようになりました。救急部門の役割というのは病院によって違います。地域と時代のニーズに合わせて、業務内容を変化させながら、これまでに以上に地域の救急医療に貢献できたらと考えます」。

救急隊・先生方との コミュニケーションを密に

「救急車とウォークインの比率は約5対5。それぞれ半数が地域の開業医さんや医療機関さん経由でして、ご紹介が多いという感触です。

患者情報は地域連携室スタッフを通してもらいますが、どんな疾患を想定されているかお伝えいただけますと大変助か



看護師、ナースエイド、クラーク合わせて総勢30名近くになる救急外来スタッフ。軽症から緊急手術が必要な重症者まで幅広くチームワークで対応。併設している内視鏡センター、血管撮影室も担当する。

ります。返書はなるべく早く、自分がかかるところまで出すようにしています。緊急事態のときは、例えば気管支炎か何かを疑って紹介された患者さんが急性大動脈解離で即手術になるような場合には、紹介元の先生に直接電話でご報告をします」。

救急隊にも必要に応じ患者さんのフィードバックを行い、毎年、救急隊との合同勉強会も開催しています。「地域の先生方・救急隊・そしてスタッフと十分にコミュニケーションを取りながら、救急部門の役割をしっかりと果たしたいと思えます」。

急性期機能拡張工事を進めています

—化学療法室、リハビリテーション室が7階へ—

地域の救急医療にさらに貢献できるよう、現在当院では急性期機能拡張工事を行っています。

具体的には「日帰り手術センター」を地下1階に新設し、現在過密状態である既存の手術室の枠を確保するというものです。局部麻酔の日帰り手術患者さんが増えることでベッドの空きも生まれ、緊急対応が必要な患者さんの受け入れを拡大できるようにします。

その工事の一環として、地下1階にあったリハビリテーション室・言語聴覚療法室、1階にあった化学療法室を最上階の7階へ移設し、これまでより明るく広々とした場所で患者さんにお過ごしいただけるようになりました。「日帰り手術センター」は10月完成予定です。



リハビリテーション室



化学療法室



調剤室も新設しました



言語聴覚療法室

●小児科 舌下免疫療法を開始しました

小児科では7月より、ダニアレルギー・スギアレルギーに対する舌下免疫療法を開始しました。対象は5歳以上のお子さんです。

1日1回、ダニもしくはスギエキスを含んだ錠剤を口に含み、徐々に抗体を獲得します。継続期間は3〜4年。まれにアナフィラキシーショックをおこすことがあります。その際は、極力当院で対応させていただきます。

ご予約は、火曜午後の「呼吸器・アレルギー外来」もしくは午前前の外来でも可能ですので、ぜひご紹介ください。



小児科 医長
西田 理子

日本小児科学会小児科専門医
小児呼吸器を専門とする

医師入退職のお知らせ

入職
7/1付

心臓血管外科 医員 松岡志超
救急科 医員 米沢光平

退職
7/31付

皮膚科 医員 山尾 暁

医療法人財団 荻窪病院 地域連携室
TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258

月～金 8:30～18:30 土 8:30～12:00
〒167-0035 杉並区今川 3-1-24
<https://www.ogikubo-hospital.or.jp/>